

令和6年12月11日

**経済産業省 採択事業
地域経済政策推進事業補助金 ハマカルアートプロジェクト
「鮭 アートのぼり プロジェクト」が開催！**

経済産業省の採択事業である「地域経済政策推進事業補助金」を受けて、福島県浜通りを中心とする12市町村の復興を目的に、今年も「ハマカルアートプロジェクト」が始動します。

本プロジェクトは、アート活動を通じて地域の文化の再発見や新しい価値の創出を目指します。福島大学の芸術・表現コースの学生が中心となり、鮭をモチーフにしたアートのぼりを制作し、作品は2025年1月11日から東日本大震災・原子力災害伝承館で展示される予定です。

東京電力福島第一原子力発電所の事故以降、福島県浜通りでは一部避難指示が続いています。この厳しい状況を受け、地域経済の再生を図るため、経済産業省の支援を受けた「ハマカルアートプロジェクト」が令和5年に立ち上がりました。

本プロジェクトは、アートを通じて地域の文化や歴史を再発見し、地域外からの関心を高め、新たな人々の交流を促進することを目的としています。

相双地区では、秋に多くの鮭が海から戻る光景が見られます。この鮭をテーマにしたアートのぼりを、福島大学の芸術・表現コースの学生が中心となりワークショップで制作します。

また、世界中から作品を広く募集し、地域の魅力を国内外に発信します。これまでに、2011年から続けてきた「アートのぼり」活動では、世界14カ国から4000点以上の作品が集まり、様々なメディアでも紹介されています。

本プロジェクトを通じて、福島県の復興と地域振興に寄与することを目指し、地域の方々と共に新たな文化を創造していきます。

(お問い合わせ先)

福島大学 人間発達文化学類教授
芸術による地域創造研究所 所長
渡邊晃一

電話：024-548-8226

メール：koichi@educ.fukushima-u.ac.jp

H P：http://www.wa-art.com

経済産業省 採択事業

地域経済政策推進事業補助金 ハマカルアートプロジェクト

「鮭 アートのぼり プロジェクト」

福島大学 人間発達文化学類 教授
福島大学 芸術による地域創造研究所 所長
渡邊 晃一

Tel : 024-548-8226

E-mail: koichiw@educ.fukushima-u.ac.jp

<http://www.wa-art.com>



HAMACUL ART PROJECT 2024 ハマカルアートプロジェクト

福島に アートで向かう

—なぜ今、福島で“アート”なのか?—

2024.

11.28 [thu]

18:30 — 20:00 開場 18:15

トークイベント終了後、21:00まで懇親会を開催

会場

3×3 Lab Future

東京都千代田区大手町1-1-2 大手門タワー・ENEOSビル1階

オンライン
配信あり



参加費無料



Dialogues between Winds and Books: 風と書の対話記
社会学者・東京大学大学院准教授

開沼 博



ロココク・キッチン
ノンフィクション作家

川内 有緒



浜通りの「台」制作プロジェクト
建築家・東京藝術大学准教授

藤村 龍至

経済産業省補助事業 ハマカルアートプロジェクト2024

トークイベント

「福島にアートで向かう—なぜ今、福島で“アート”なのか?—」

福島大学 芸術による地域創造研究所

事業者情報



代表者 所長 渡邊 晃一

所在地 福島県福島市金谷川1番地

WEBサイト

<http://wa-art.com/rclart/>



事業の基本情報

事業名 「鮭のぼり アートプロジェクト」
(福島ビエンナーレ 海神の芸術祭 2026)

実施地域 双葉町 他

連携団体 東日本大震災・原子力災害 伝承館
他

Point

子どもたちと「鮭のぼり」を制作する活動を
福島大学の学生が実施

事業の概要

本事業は、生まれた川に「鮭」が産卵のために海から戻る習性や福島の自然にたいする想いと重ねて、「鮭」をテーマとしたアートのぼりを制作する活動です。

相双地区（浜通り地域）は、震災前に鮭の漁獲が盛んに行われていました。江戸時代は資源保護のため乱獲を禁止し、明治には稚魚を川に放す活動が早くからなされてきた歴史もあります。これまで福島大学芸術による地域創造研究所ではアートによる復興支援プログラムとして「鯉のぼり」を復興のシンボルになぞらえ活動してきました。今回は新たに相双地区の「鮭」をテーマに、アートのぼりの作品を制作します。

事業期間中は双葉町をはじめ福島県内の各地でワークショップを行い、子どもたちを中心に多くの方々と一緒に「鮭のぼり」を制作する活動を、福島大学の学生が中心となって実施します。

完成後は、東日本大震災・原子力災害伝承館や双葉町など相双地区で、作品を展示します。また記録集やポスターなども作成して、本事業の活動を広く浸透させる予定です。



2013年5月に福島に飾られた「鯉アートのぼり」



2012年5月に福島空港に飾られた「鯉アートのぼり」

大学名 福島大学(芸術による地域創造研究所)

アートによる文化活動を通じた福島県の街づくりを支援



活動事例

福島ビエンナーレ

福島大学の学生が実行委員となり、2004年に始動した。文化施設、空港、商店街などを会場に、美術の展示、パフォーマンスやシンポジウムなどを開催。福島を拠点に、地域の人々との交流を図り、自主的な活動と活気ある地域づくり、新たな地域文化の創造を目指している。

<http://wa-art.com/bien/>

風と土の芸術祭

2007年から伝統的な会津本郷焼の産地の「土」を用いて作品を制作し、本郷のメインストリートに作品を展示。地元の子どもたちが地域をフィールドにしたこのイベントに参加することで、自分たちが暮らすまちの歴史や文化を考える「場」を提供している。

<http://wa-art.com/misato/>

Koi鯉アートのぼり

子どもたちと一緒に一匹の大きな鯉のウロコに思いを描き、避難所や学校園に飾るワークショップや、世界各地から寄せられた応援メッセージを福島に飾る「鯉アートのぼり」の活動。図画工作の教科書にも掲載。震災後の福島において展覧会、ワークショップ、伝統的な文化活動の支援を開催。

<http://wa-art.com/koi/>

参考URL

研究所ホームページ

<https://www.ad.ipc.fukushima-u.ac.jp/~p107/irc/thema.html>

